

KDDI 総研 R&A 誌は定期購読（年間 29,988 円）がお得です。お申し込みは、KDDI 総研ブックオンデマンドサービスまで。既刊の PDF 無料ダウンロードの特典もあります。

(<http://www.bookpark.ne.jp/kddi/>)

マレーシアの通信事業者が  
海外投資を積極化



## マレーシアの通信事業者が海外投資を積極化

🕒 記事のポイント

### サマリー

マレーシアの通信事業者（Telekom Malaysia、Maxis）が相次いで外国の携帯電話事業者への出資を積極化し始めた。対象国はインドとインドネシアで、普及率のいまだ低い両国の携帯電話市場はともに有望である。Telekom Malaysiaは子会社のTM Internationalを通じて、従来南アフリカ、スリランカ、バングラデッシュなど、比較的マイナーな市場に投資してきたが、今般の投資は大市場向けで特記できる。本稿では、マレーシアの主要通信市場統計、主要事業者の一般的情報を概観したのち、今回の投資の内容を紹介し、その背景などについて考察する。

主な登場者 Telekom Malaysia Maxis DiGi

キーワード 携帯電話 国際展開

地域 アジア マレーシア

執筆者 KDDI総研 調査3部 河村 公一郎 (ko-kawamura@kddi.com)

### 1 マレーシアの主要通信市場統計

電気通信の規制機関MCMCのホームページによると、マレーシアの人口は2004年9月現在2572万人であり、どちらかと言うとアジアでは小国である。

同ホームページによると、2004年9月末現在、固定電話加入は449万3,000回線（人口普及率17.5%）である。2002年から固定電話の加入総数、人口普及率、世帯普及率が減少傾向にあるが、携帯電話普及の増勢が一要因であろうことは容易に想像できる。図表1に固定電話の回線数統計を示す。

続いて、図表2に携帯電話の回線数統計を示す。2004年9月末現在、携帯電話加入は固定電話加入の約3倍に達している。1998年の成長率減少はアジア通貨経済危機による経済活動の停滞によるものと考えられるが、その後の成長は力強く、ここ2～3年も年20%以上の成長を続けている。SMS利用数の伸びは特に大きく、2004年3Qと2003年3Qの利用数を比較すると、約53%の増加となっている。

マレーシアの通信事業者が  
海外投資を積極化

【図表1】 マレーシアにおける固定電話の回線数統計

時期	回線数(万)	前期比 成長率(%)	人口 普及率(%)	世帯 普及率(%)	積滞数 (万)
1998年末	437	2.8	19.7	69.5	na
1999年末	442.3	1.2	19.5	68.6	na
2000年末	462.8	4.6	19.7	66.4	9.9
2001年末	471	1.8	19.6	65.1	9.9
2002年末	467	-0.8	18.8	61.7	6.6
2003年末	457.2	-2.1	18.1	58	4.9
2003年1Q末	465	-0.4	18.7	60.9	6.4
2003年2Q末	462	-0.6	18.4	59.8	5.7
2003年3Q末	459.7	-0.5	18.3	58.9	4.8
2003年4Q末	457.2	-0.5	18.1	58	4.9
2004年1Q末	455.5	-0.4	17.9	57.2	4.5
2004年2Q末	454.7	-0.2	17.8	56.8	4.3
2004年3Q末	449.3	-1.2	17.5	56.4	4.7

出典: 規制機関MCMCのホームページ

【図表2】 マレーシアにおける携帯電話の回線数統計

時期	回線数(万)	前期比 成長率(%)	人口 普及率(%)	デジタル 電話率(%)	全電話内 比率(%)	期間SMS 通数(億)	期間SMS通数 /加入者
1998年末	215	-12.6	9.7	74.5	33	na	na
1999年末	271.7	26.4	12	83.7	38.1	na	na
2000年末	512.2	88.5	21.8	91.8	52.5	na	na
2001年末	738.5	44.2	30.8	95.6	61.1	na	na
2002年末	905.3	22.6	36.9	97.9	66	36.06	398
2003年末	1112.4	22.9	43.9	98.9	70.9	61.64	554
2003年1Q末	954.3	5.4	38.3	98.3	67.2	14.33	150
2003年2Q末	993.1	4.1	39.6	98.5	68.2	14.38	145
2003年3Q末	1034.4	4.2	41.1	98.7	69.2	16.35	158
2003年4Q末	1112.4	7.5	43.9	99	70.9	16.58	149
2004年1Q末	1176.2	5.7	46.2	99.1	72.1	19.97	170
2004年2Q末	1239.8	5.4	48.5	99.2	73.5	20.88	168
2004年3Q末	1304.2	5.2	50.7	99.3	74.4	25.01	192

出典: 規制機関MCMCのホームページ

マレーシアの通信事業者が  
海外投資を積極化

一方、インターネットサービスへの加入は、Dial-upによる加入は最近2年間でも年10%の伸びを示しているが、大きな流れとしては伸び率が鈍化しつつある。図表3にインターネット加入数統計（Dial-up）を示す。

反面、絶対数はまだ少ないが、ブロードバンド加入数は、最近2年間、年約10万のペースで増加し勢いを増している。図表4にブロードバンド加入回線数統計を示す。

【図表3】 マレーシアにおけるインターネット加入数統計（Dial-up）

時期	加入数(万)	前期比 成長率(%)	人口 普及率(%)	推定ネット 利用者数	推定PC数 (万)	推定PC人口 普及率(%)
1998年末	40.5	97.6	1.8	121.5	136	6.1
1999年末	66.8	64.9	2.9	200.4	180	7.9
2000年末	165.9	148.4	7.1	497.7	220	9.4
2001年末	211.3	27.4	8.8	634.5	300	12.5
2002年末	261.4	23.7	10.5	784.2	360	14.5
2003年末	288.1	10.2	11.4	864.3	420	16.6
2003年1Q末	267.9	2.5	10.8	803.7	na	na
2003年2Q末	272.9	1.9	10.9	818.7	na	na
2003年3Q末	284.2	4.1	11.3	852.6	na	na
2003年4Q末	288.1	1.4	11.4	864.3	420	16.6
2004年1Q末	313.9	8.7	12.4	941.7	na	na
2004年2Q末	311.7	-0.7	12.2	935.1	na	na
2004年3Q末	317.1	1.7	12.3	951.3	na	na

出典：規制機関MCMCのホームページ

【図表4】 マレーシアのブロードバンド加入回線数統計

時期	ADSL	SDSL	その他	合計	人口 普及率(%)
2002年末	18,511	542	249	19,302	0.08
2003年末	108,173	1,931	302	110,406	0.45
2004年1Q末	139,862	2,168	302	142,332	0.56
2004年2Q末	170,516	2,432	1,286	174,234	0.68
2004年3Q末	213,589	2,616	1,799	218,004	0.85

出典：規制機関MCMCのホームページ

## 2 マレーシアの主要通信事業者

固定電話ではTelekom Malaysia（以下「TM」）が支配的であり<sup>④（脚注1）</sup>、携帯電話ではTM子会社のCelcomとMaxis Communications（以下「Maxis」）が雌雄を争っている。

図表5に主要固定系通信事業者を、図表6に主要携帯電話事業者を示す。なお、携帯電話事業者の性格が強いMaxisやDIGI.COM（以下「DiGi」）も固定電話サービスを提供している<sup>④（脚注2）</sup>。

【図表5】 マレーシアの主要固定系通信事業者

事業者名	主要サービス	資本系列	備考
TM	電話、ネット接続、ブロードバンド(xDSL)、法人系サービス（専用系サービス等）、放送系サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Khazanah Nasional (35.2%) (注1)</li> <li>• 従業員年金基金 (12%)</li> <li>• Bank Negara (7.4%)</li> <li>• Temasek Holdings (5%) (注2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 固定電話回線数シェア約99%</li> <li>• ネット接続は子会社TMNet</li> </ul>
TIME dotCom	電話、ネット接続、ブロードバンド(xDSL)、法人系サービス（専用系サービス等）	Time Engineering (Renong財閥系)	傘下に4つの事業会社 (TT dotCom、TIME dotNet、TIMESat、TIME Reach)
MIMOS	ネット接続 (Dial-up、専用線、無線LAN)、iDC、VPN、VoIP	財務省	R&D機関としての性格も有する。



④（脚注1）

現地紙The Star (2004.5.21)によると、TMの固定電話加入者回線数は約450万である。図表1をもとに計算すると、TMのシェアはおよそ99%となる。

④（脚注2）

例えばMaxisは、ホームページによれば、限定的な地域 (Bangsar, Damansara, Bandar Sunway, USJ, Nilai, Kelang, Old Klang Road, Downtown KL, Sierramas) の選定された住宅環境のユーザに対しては加入回線サービスも提供している。

マレーシアの通信事業者が  
海外投資を積極化

(表注1) 政府系投資会社

(表注2) シンガポールの政府系投資会社。

(事業者ホームページの情報等をもとにKDDI総研で作成)

【図表6】 マレーシアの主要携帯電話通信事業者

事業者名	既存通信方式	加入数 (2004.9) (シェア)	資本系列
Celcom	TACS GSM/GPRS W-CDMA	TACS: 59,600 GSM: 4,751,700 (36.7%)	TM (100%)
Maxis	GSM/GPRS	GSM: 5,479,300 (41.8%)	Ananda Krishnan氏関連 企業 (注)
DiGi	GSM/GPRS EDGE	GSM: 2,810,000 (21.4%)	・ Telenor ASA (61%) ・ Tan Sri Vincent Tan Chee Yioun
合計		13,100,600	

(表注) Ananda Krishnan氏はインド系の地元ビジネス王。

(加入数出典) EMC World Cellular Database (November 2004 Edition)。

同データベースによると、この他にTMのNMT-450 (18,300加入) がある。

(事業者のホームページの情報等をもとにKDDI総研で作成)

### 3 TMがインドとインドネシアの事業者に出資

#### 3-1 インド事業者Idea Cellularへの出資

2004年12月、TM、シンガポールのST Telemedia (以下「STT」、インドのIdea Cellular (以下「Idea」) は、TMとSTTが合計47.7%のIdea株を3億9000万US\$ (約404億円) <sup>(換算率)</sup> で取得することで合意した。株式は既存株主の米Cingular Wireless等から買収する。現地紙The News Straight (2004.12.14) によれば、TMの所有率



(換算率)

1US\$=103.6円 (2005年2月1日付け東京市場TTMレート)

は19.1%である。2005年2月2日現在、両者はインド政府による承認を待っている状況である<sup>☞(脚注1)</sup>。

TMは、シンガポールとの関係ではSTTと接近している模様である。元来、支配的事業者のSingTelとは接近しにくい面があり、本件はSingTel/Bhartiの提携への対抗軸の性格も持つと言えよう。Ideaは民間系のGSM事業者としては中堅の事業者であり<sup>☞(脚注2)</sup>、インド携帯電話市場の有望性(図表7参照)を考えると成長路線に乗っていよう。

【図表7】 インドにおける携帯電話加入数推移の予測例

	2004年末	2005年末	2006年末	2007年末	2008年末	2009年末
加入数予測	48,384,660	70,208,190	90,714,250	110,436,840	127,557,550	141,275,690
対前年伸び率	70.10%	45.10%	29.20%	21.70%	15.50%	10.80%

(EMC World Cellular Databaseのデータにより作成)

(表注) 数字はすべて予測値。

### 3-2 インドネシア事業者PT Excelcomindoへの出資

2005年1月、TMはインドネシア第3位の携帯電話事業者であるPT Excelcomindo Pratama (以下「Excelcomindo」)<sup>☞(脚注3)</sup>の株式27.3%を3億1,400万US\$ (約325億



☞(脚注1)

2005年2月2日、インド政府は電気通信事業への外国からの直接投資(FDI)の比率(外資規制)を49%から74%に緩和した。これを受け、TMとSTTとの共同ステートメントは、Idea Cellularへの出資率の拡大の可能性を示唆した。

☞(脚注2)

Ideaはインド第5位の携帯電話事業者で、EMC World Cellular Databaseによると、2004年9月末現在、加入者数、シェアはそれぞれ4,453,700、10.4%である。同年同月現在、1位から4位までは、それぞれ、Reliance Infocomm、Bharti Cellular、BSNL、Hutchison/Aircelである。

☞(脚注3)

EMC World Cellular Databaseによると、Excelcomindoの加入数、シェアは、2004年9月末現在、それぞれ3,493,200、14.6%である。

マレーシアの通信事業者が  
海外投資を積極化

円)で取得した<sup>④</sup>(脚注)。1位、2位のPT Telkomsel、PT Indosatには、それぞれシンガポールのSingTel、STTが出資しており、同国の従来からの支配的事業者は、シンガポール系企業の様相を呈している。

今般、TMは中堅企業に出資したわけだが、市場の有望性(図表8参照)を考えると、Excelcomindoは伸びる余地を持つキャリアと言えよう。

なお、TMによる海外投資は子会社のTM Internationalを通じて実施されてきており、今回の2件も同様である。

【図表8】インドネシアにおける携帯電話加入数推移の予測例

	2004年末	2005年末	2006年末	2007年末	2008年末	2009年末
加入数予測	26,921,550	35,854,550	44,089,590	51,034,140	56,387,860	60,300,590
前年比伸び率	51.60%	33.20%	23.00%	15.80%	10.50%	6.90%

(EMC World Cellular Databaseのデータにより作成)

(表注)数字はすべて予測値。

#### 【コラム①】TMが構造改革を実施

TMは、Datuk Abdul Wahid Omar氏のCEO就任に合わせるかたちで、2004年7月1日に構造改革を行った。すなわち、TMは最大のビジネス部門であるTM TelCoをTM WholesaleとTM Retailに切り分けた。TM TelCoはあらゆる固定系通信を担当してきた内部部門である。携帯電話(Celcom)などのビジネス部門はすでに子会社として切り出されている。

TM Wholesaleはアクセスを含むインフラを免許事業者に提供し、TM Retailはエンドユーザ(個人、法人)へのサービス提供に専念する。切り分けの最大の目的は、冗長なプロセスを合理化することによる業務効率化にあるが、一方で、本改革は、MCMCがローカルループアンバンドルを決めた場合に備える動きでもある。

Datuk Abdul Wahid Omar氏は40歳の若さで27,000人の組織のCEOとなったが、就任後100日間で基本的な戦略を明確化するとし、2004年10月、以下の戦略骨子を発表している。



<sup>④</sup>(脚注)

Excelcomindoは2005年2月、株式公開(IPO)を通じて2005年上半期に30%までの増資を行う計画を発表した。これに伴い、TMは2005年を通じて株の買い増しを行い、主要株主の地位を確保する意向を表明した。

- ・ キャッシュフローの成長と固定電話ビジネスにおける資産効率の増大
- ・ 携帯電話分野の堅実な成長を目指し、投資強化
- ・ データ、ブロードバンド、付加価値サービスへのフォーカス
- ・ 顧客指向、サービス指向の文化の醸成
- ・ 細心の注意を払った国際展開
- ・ オペレーションコストの継続的削減

#### 4 Maxisがインドネシア事業者に出資

2005年1月20日、Maxisはインドネシアの携帯電話事業者PT Natrindo Telepon Seluler<sup>☞</sup> (脚注1) (以下「NTS」) の株式51%を1億US\$ (約104億円) で取得すると発表した。本件はTMがExcelcomindoとIdea Cellularへの参加を発表した数週間後に明らかにされており、対抗的なアクションとも取れる。

NTSの加入者ベースは現状非常に小さいが、3G免許を取得している点は斬新である<sup>☞</sup> (脚注2)。MaxisのCEOであるDatuk Jamaludin Ibrahim氏はインドネシアの携帯電話加入者は向こう5年間で4000万~5000万の新規増があると見ており、NTSへの参加は、ASEAN地域でのプレゼンス増大という同社の長期成長戦略の項目に沿うものとしている。Maxisは、(1) 自国での加入者獲得ノウハウを応用する、(2) Lippo Groupのカスタマベースを活用する、という2面戦略でNTSをてこ入れする予定である。

Maxisは、Lippo Groupの傘下企業でNTSの主要株主であるPT Aneka Tirta NusaとNTSから株式を買収する予定であり、2005年第1四半期に実現すると期待されている。



☞ (脚注1)

Lippo Groupの通信事業ユニットで、別称Lippo Telecom。通信方式はGSMで、2005年1月現在の加入者数は25,000程度と少ない。もともと東ジャワの地域免許事業者であったが他の6つの地域免許事業者を吸収、2002年12月に全国免許への転換を承認された。

☞ (脚注2)

インドネシアで2件目の3G免許で、2004年9月に取得された。1件目は、2003年10月にCyber Access Communicationsが取得している。支配的事業者のPT Telkomsel、PT Indosatは、2005年2月現在まだ取得していない。



## 【コラム②】 携帯第3位のDiGiが3G免許を申請の意向

現地紙Business Times (2004.11.22)によると、DiGiは3G免許取得に向けて規制機関MCMCと話し合いを持っている。現在、TMとMaxisが3G免許を取得しているが、免許枠は2つ残っている。

2002年の3G免許選定当時、DiGiは申請書提出間際に取りやめ、既存GSMの高度化技術であるEDGE (Enhanced Data rates for Global Evolution) を利用してネットワークをアップグレードする道を選んだ。しかし、同社のCTOのJon Eddy氏によると、DiGiは過去2年間正式の3G免許申請を行わなかったものの常に関心を持ち続けてきた。

なお、現地紙The Business Straight (2004.3.18)によれば、DiGiは2004年2月、2003年度の当初利益予想を17.4%上回る結果を発表しており、良好なキャッシュフローを生むに十分な顧客ベースを確保している。

このような状況であるため、アジアを重視している筆頭株主のTelenorもDiGiの株式を売却する意向を見せない。Telenorは2006年9月までに現在の保有率61%を49%まで引き下げる必要があるが、できることならそのまま保持したい模様である。

## 📖 執筆者コメント

マレーシアは国民一人あたりのGDPを指標にすると、ASEAN諸国のなかではシンガポールに次ぐ位置にある。米国CIAの2003年推定値（購買力平価ベース）によると、シンガポールが23,700US\$、マレーシアが9,000US\$、第3位のタイが7,400US\$、第4位のフィリピンが4,600US\$、第5位のインドネシアが3,200US\$である。マレーシアはASEANにあって豊かな方に属する。

他方、“人のいるところ市場あり”と人口を重視するならば、重量感でインドネシア(2億3,845万人)、ベトナム(8,269万人)、タイ(6,487万人)、ミャンマー(4,272万人)などに見劣りする<sup>④</sup>(脚注)。

ASEAN域内(および域外)キャリアへの投資は、従来、豊かではあるが小国であるシンガポールのSingTelが積極的に行ってきた。同国のSTT(StarHubの親会社)も積極姿勢を強めている。

マレーシアの国情もシンガポールにある程度似てきた。TMのDatuk Abdul Wahid Omar社長はマレーシアの携帯電話市場は2008年に飽和すると見ており、マレーシア



<sup>④</sup>(脚注)

人口は、いずれも米国CIAによる2004年7月現在推定値。

のキャリアも外向きに走り始めた。見境のない投資はむしろ危険であるが、インドネシアのExcelcomindoとインドのIdea Cellularは有望市場における中堅キャリアであり、妥当な選択に属すると言えよう。

ASEANは今後地域統合を進化させていくので、一国における人口の多寡はあまり意味を持たなくなるだろう。むしろ今のうちから対外投資を実行しておくことには意義があり、こうした積極性を怠るとASEANのなかで埋没するリスクが大きくなるだろう。

## 📖 出典・参考文献

- ・ 米国CIAのホームページ (<http://cia.gov/cia/publications/factbook/geos/my.html>)
- ・ 規制機関MCMCのホームページ (<http://www.cmc.gov.my/>)
- ・ インドの規制機関TRAIのホームページ  
(<http://www.trai.gov.in/indicator17dec.pdf>)
- ・ Total Telecomのオンライン情報サービス (<http://www.totaltele.com/>)
- ・ (株) NNAのオンライン情報サービスPOWERASIA
- ・ 事業者のホームページ  
Telekom Malaysia (<http://www.telekom.com.my/>)  
TIME dotCom (<http://www.time.com.my/>)  
MIMOS (<http://www.mimos.com.my/>) (<http://www.jaring.my/>)  
Celcom (<http://www.celcom.com.my/>)  
Maxis (<http://www.maxis.com.my/>)  
DiGi (<http://www.digi.com.my/>)
- ・ 現地紙  
Business Times (2005.1.21)  
The Star (2005.1.21, 2004.10.14, 2004.6.2, 2004.5.21)  
The Business Straight (2004.3.18)  
The News Straight (2004.12.14, 2004.11.22, 2004.11.4, 2004.10.8, 2004.8.18,  
2004.7.2, 2004.6.8)